美　唄

Bibai

一難去って又一難

戦争は始めるより終えるほうが難しい。その終わりかたも大事である。タリバンの崩壊寸前でその後のアフガニスタン再建に向けてドイツのボンで国連主導で難しいながらも着々と明るい方向に道筋ができているようである（この原稿が活字になるころには一段と明るい局面を迎えていることを祈念して止まないけれど)。もう一つの火薬庫ともいうべきエルサレムにおいて，イスラエルが12月４日パレスチナ過激派による自爆テロに対する報復攻撃について米大統領は，イスラエルのミサイル攻撃によってパレスチナ人に多勢の死傷者の出たにもかかわらず，イスラエルに対する批判は一切控え，イスラエル寄りの姿勢を鮮明にした上で,「和平達成は大切だが，それよりもテロリストを法の裁きにかけることが先決，周辺諸国もそれに協力すべきだ」と述べた。パレスチナ自治政府はこの問題で早急に安全保障理事会の開催とイスラエルによる武力行使拡大を阻止するための国連

監視部隊を派遣する決議案を審議するよう同理事会に要請したが，米国の拒否権行使などで残念なことに実現しなかったという。一方でアナン国連事務総長はパレスチナ情勢について「平和的解決以外の道は存在しない」と述べ平和交渉再開を呼びかけているとのことである。このままイスラエルの報復攻撃を本格化させたまま放置すれば，アラブ諸国の多数はイスラエルの行動を黙認する米国に批判の矛先（ほこさき）を向けない，とは誰も保障出来ないのではと思われてならない。昭和20年8月15日，ポツダム宣言を受託した日本に対し連合国の中の中国の蔣介石総統の「中国は全土に残留している日本軍兵士は無事全員日本に送り還す。私は暴に報ゆるに暴を以てしない」と述べて，日本国民全員を脱帽させた言葉は永遠に輝きをうしなわない，と思えてならないのだが。この時こそがまさに小泉首相の出場である。ここでアメリカを冷静にさせることができれば，流石というところなのだが。

（雨田　実記）

続モチモチの木

検索すると出てくる，出てくる。栃餅の作り方から，栃餅を販売しているところまで…。結果，やっぱり栃の実は苦いもので，食べるにはあく抜きが必要なことがわかりました。そしてその工程を知って，私の栃の実を食べる野望は悲しくもしぼんでしまったのです。だってそれはそれは気の遠くなるような時間と手間のかかる作業だったのです。参考までに以下のとおりです。

1．実を十分に乾燥させる。
2．15～20日くらい流水に浸しておく。
3．芯まで水がしみた実を鍋に入れて温める。
4．煮立つ前に鍋を火からおろし，実と湯を一緒にバケツなどにあけ，木炭を入れてよくかきまぜ，5日間くらい浸しておく。
5．実を割って，全体に黄色くなっていれば取り出し，水洗をする。
6．蒸し器にふやかしたもち米を入れ，その上に実をのせて蒸し，臼でつきのしもちなどにする。

どうですかこれ，15～20日くらい流水に浸すって，家でやったら水道代がとんでもないことになるし，木炭なんて今どきなかなか手に入りませんよね。昔の人はほんとえらいです。

インターネットでいろいろと調べたおかげで，栃の葉や実がとっても体にいいこともわかりました。漢方薬にもなっているくらいで，下痢に内服したり，しもやけ，打ち身，水虫，痔に外用したりするそうです。でもわざわざ家の前の栃の木の葉や実を煎じて飲んだり，すりつぶして湿布するという気にはさすがになりません。だけど栃餅は食べてみたいので，おばあちゃんが手作りで作っているという栃餅を注文することにしました。

注文して数日後，兵庫県からゆうパックで届いた包みをあけると，黄色い丸餅がきれいに並んでいて，栃の木の香りがふわっと広がりました。ちょっと苦くてくせのある味ですが，そんなにまずいという感じではありませんでした。でもあんこの量が多すぎて，甘すぎるのです。私ならもっとあんこの量を減らして，栃の実の独特の香りと味を生かしたものにするのにな…と思いました。

私もおばあちゃんになったら，「栃餅作り」始めるかもしれません。なーんて多分やらないでしょうけどね。

（吉村裕美子記）